



小田原なぎさ会通信

No.32

2022年4月1発行

私たちは、「精神に障害を持つ皆さんをはじめとして、色々な障害を持つ皆さんが誇りある社会の一員として自立した生活を送ること」を支援する活動をしています。①施設の設置・運営、②普及・啓発、③関連先との連携、が事業の中心です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

<中期的な活動指針>

広げよう！『活動の輪』

理事長 乾 恒雄



2年以上に及ぶ新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19と記載）の感染拡大は、日本でも色々なところで大きな影響を与え、今なお不安な日々が続いています。一方、3回目のワクチン接種が進む中、4回目のワクチン接種や色々な投薬実用化の話も耳にしており、このあたりで今回のウイルス騒動にも一区切りさせたいものです。長引くコロナ禍の中ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

さて、昨年度も基本方針として、「現在取組み中の活動継続とその内容充実に重点を置く」ことを掲げて活動の推進に努めましたが、COVID-19の影響を受け、色々な工夫を盛込みながらの活動になりました。このような環境下でしたが、COVID-19の感染拡大が最も落ち着いていると判断した昨年12月4日に「当法人の創立15周年記念式典」を規模を縮小しながらも開催し、盛況に終えることができたことは本当に嬉しく感じております（[詳細次ページ参照](#)）。COVID-19の収束が見通せない状況ではありますが、今年度も色々な工夫をしながら活動を継続していきたく考えます。

標記の**中期的な活動指針「広げよう！『活動の輪』」**は、2019年度(令和元年)に策定し、5年計画として今年度はいよいよ後半に入りました。この指針の本質は「普及啓発事業の強化」にあり、多様性の社会の中で「障害を持っている皆さんも大切な私たちの仲間として共に暮らしていく地域・社会を作り上げていく動きを広げていきたい想い」にあります。この推進強化に向け、上記「**広げよう！『活動の輪』**」を合言葉として、私達の活動にご理解と共感を持っていただける仲間（当法人の会員や協働者など）を継続的に増やしていく活動に、**役員をはじめとした全会員の総力をあげて取組んでいきましょう!!!**そして、1人でも多くの皆様と共に、このような市民・社会活動を通して先ずは日本社会を成長（意識と行動の底上げ）させていきましょう（[詳細次ページ参照](#)）。



上記の想いや私たちの活動は、**『SDGs』**にも①**福祉の促進や差別の解消・不平等の是正**、②**自然環境の保護及び回復（持続可能な生態系や森林の保護・回復、気候変動の軽減等）**への取組みによる**『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会**を目指す思想など、深いつながりを持っていると捉えています。



これからも私たちの活動に、ご理解とご協力・協働をよろしくお願いいたします。

このページでは、私たちの法人活動や運営施設「小田原なぎさ作業所」での各種活動・イベントなどの様子を中心に紹介させていただきます。

『小田原なぎさ会 創立 15 周年記念式典』

多くの皆様の支えや応援をいただきながら、創立15周年を迎えることができたことに深く感謝いたします。コロナ禍の中での開催であったため、規模を縮小(参加総数40名程度に絞る)し感染対策をしっかり行いながらの式典でしたが、盛況に終えることができました。式典終了後も多くの御来賓や会員がその場に残りご歓談が続くほどの盛上った式典になりました。

理事長あいさつ



『この15年を振り返って、そしてこれから』と題して、理事長着任時から①まずは数年をかけて「活動基盤の再構築」に取り組み、②引き続き「財務体質の改善」を進め、③現在「普及啓発の強化」を推進している旨のお話がありました。中期的な活動指針「広げよう!『活動の輪』」が、まさに現在の最大テーマです。

正会員からの祝電

遠く離れた神戸在住の会員から、心温まる祝電をいただきました。「私たちの篤い活動に敬意を表し、これからの『活動の輪』の広がり期待して共に活動を進めましょう」との旨で、大きな励みをいただきました。



御来賓ご祝辞

小田原市長をはじめとして、国会・県会・市会の議員各位や連携機関・団体の代表各位など御来賓15名の方々にご臨席いただき、代表して7名の方からご祝辞をいただきました。お忙しい中ご臨席いただくと共に、私たちの活動に共感していただき、感謝いたします。



小田原市長 守屋輝彦様 デジタル大臣 代理:二本木隆宏様 牧島かれん 神奈川県議会議員 佐々木ナオミ様 小田原市議会議員 小谷英次郎様 小田原市 福祉健康部 部長 中津川英二様 富士見地区連合会長 関野次男様 平塚看護専門学校 校長 吉岡幸様

感謝状贈呈

活動開始から7年目になる「通所メンバー主体のエコキャップ活動」に対して、感謝状を世界の子共にワクチンを 日本委員会様と南開工業株式会社様からいただきました。



多くの応援団の協力を得ながら「私たちも誰かを支援できる!」を合言葉に、粘り強く継続している取組みは、きっと通所メンバー自身の励みにも、成長にも繋がっているでしょう。

式典で色々な方が出席された中で感謝状をいただいたときは感無量でした。メンバーUさん

通所メンバーからのお話

通所期間から3グループ(長期・中期・短期)に分けて各々の代表メンバーから、そして作業所を卒業したOBメンバーからもお話をしてもらいました。各々違った特性や経験からの素晴らしい話会場に全員が耳を傾けていました。



式典までに何回も発表の練習をしました。たくさんの方の前で発表したら自分に自信が持てるようになりました。メンバーF.Kさん

正会員からのお話

代表して3名の方からざっくばらんなお話をいただきました。



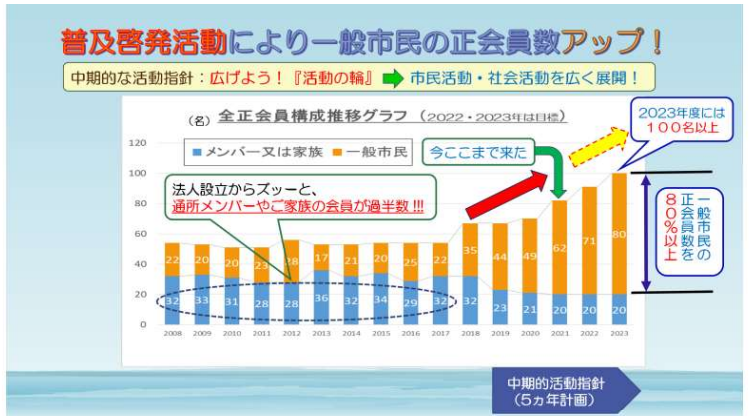
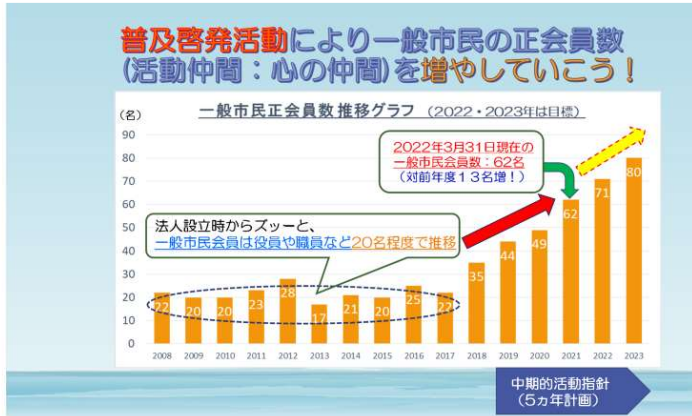
<出席した正会員の皆様からの声>

- * 良い会でした。理解が深まりました。
- * 理事長が牽引して取組まれている活動が、社会的にとっても価値があるということが、改めてよく分かりました。本当に出席できてよかったです。
- * 「活動を広げる投げかけ」を自分も機会を見つけてやってみたく思います!

理事長が話された「小田原なぎさ会のあゆみ」は、私の作業所との関わりとも一致して感慨深いものがあります。市長をはじめ皆様からありがたい祝辞をいただき、メンバーの体験談も感動的でした。想いを共にする会員の方々のお話は心強く感じました。 理事 友寄英男

中期的活動指針 広げよう！『活動の輪』 進捗状況

2019 年期首に策定しキックオフした標記活動指針は、コロナ禍の中での活動推進という難しい環境下での取組みになっています。この推進に向け、色々な工夫を凝らす（リモートやメール活用など）と共に強い想いを持って普及啓発や協働の投げかけに注力しています。まだ道半ばではありますが、2022 年度期首現時点で、下のグラフに示すように多くの一般市民の仲間が増えつつあり、数値目標として掲げている「正会員数100名（内、一般市民の会員数80名）以上」まであと一歩のところまで進展してきました。



特記すべき変化点として、当法人で初めて一般会員による一般市民への投げかけ（普及啓発活動）により、新しい仲間（会員）を生み出したことがあります。伝播が伝播につながり、活動の輪が広がり始めています。この小さな一歩には、今後の大きなうねりを生み出していく可能性を秘めています!!!

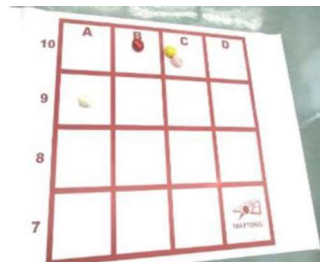
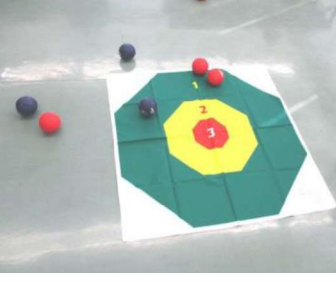
*SDGsの精神にも相通する私たちの活動を、皆様と共に広げていければ幸いです。1人でも多くの皆様のご理解とご協力・協働をよろしくお願いいたします。

『ボッチャ&マットス体験』

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止期間が続く中、通所メンバーさんから「身体を動かしたい！」という声がたくさん挙がり、みんなでボッチャとマットスを初めて楽しみました。少しはストレス発散！できたかな？

ボッチャ：イタリア語でボールという意味のボッチャはヨーロッパで考えられたパラリンピックの正式種目です。赤・青それぞれ6球ずつの球を投げたり、転がしたりして他のボールに当てるなどでいかに目標場所に近づけるかを競います。

マットス：ボールをマット（mat）にトス（toss）することから mat+toss=MATTOSS（マットス）と名付けられた様です。重さの違う4個のボールをマットに投げて、落ちた場所に依じて得点化します。



＜参加メンバーさんの感想＞
 ルールが細かくて覚えることがたくさんありましたが確認しながらやったら楽しくできました。メンバー A.Nさん 輪投げより気楽にやれて、適当に投げればどこかの枠に入るから気楽な気持ちでやりやすい。メンバー K.Hさん

～みんなの短歌～ 今号より連載で通所メンバーさんが作った短歌を少しずつご紹介していきます。

コロナ禍の中、通所メンバーの気持ちを何かの形で表現してみたいとの思いからみんなで短歌を書き始めました。はじめは戸惑いもありましたが、今では気持ちや気づきを上手に表現し、思いのまま書いています。

- ・散歩道眠れぬ夜の寒空にオリオンの星眺めて歩く T.Kさん
- ・今見ると幼き頃のアルバムは多き笑顔が写真に写る N.Sさん



事務局からのお知らせ

認定NPO法人小田原なぎさ会では、毎月下記のような様々なイベントを企画しております。会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。お問い合わせは事務局まで！！

●今までの主な活動（R3年10月～R4年3月）

10/ 1	機関紙 小田原なぎさ会通信 No.31 発行	12/17	クリスマス地域交流会開催(形式工夫)
11/17	第2回ネットワーク会議(広域)開催	3/2	平塚看護大学校学習結果発表会参加
11/22	県精連ハートメッセージ(動画)投稿	3/5	団体成長支援事業成果報告フォーラム参加
11/27	UMECO 祭り参加(物販：エコマグネット)	3/9	畑体験(植付)実施(形式工夫)
12/ 4	「法人創立15周年記念式典」開催 (当初計画の9/25から延期して開催)	3/16	令和3年度第3回理事会開催(形式工夫)
		3/17	酒匂小学校訪問(エコキャップ受取)

*新型コロナウイルス感染症の影響で、地域ネットワーク会議は第2回(広域)のみの開催とし、バス旅行は開催を中止した。赤い羽根共同募金活動や楽しい音楽会、及び近隣地域主催のイベント等も中止になりました。

●今後の主な活動予定（R4年4月～R4年9月）

4/ 1	機関紙 小田原なぎさ会通信 No.32 発行	7/13	第1回ネットワーク会議(近隣)開催
4/22	令和4年度第1回理事会開催	8/中旬	新田公園夏祭り参加
5/20	2022年(令和4年)度 通常総会開催	9/1	小田原なぎさ作業所自主防災訓練実施
6/中旬	畑体験(収穫)実施	9/7	令和4年度第2回理事会開催
6/15	第1回地域ネットワーク会議(広域)開催	9/24	なぎさ祭(第9回)開催

*新型コロナウイルス感染症の収束状況に応じて、随時各種活動の開催可否を判断していきます。

●小田原なぎさ会への入会のご案内と寄附について

★会員大募集中：一緒に障害を持つ皆さんの多面的な支援を進めましょう！！

会員になっていただくことだけで、障害者の支援活動に参加していただけます。大切に考えていることは、『皆さんの想いや心であり、仲間意識』なのです。直接的な活動の時間確保を求めるようなことはありません。

◆小田原なぎさ会会費について

- ・正会員：(個人) 入会金 1,000 円 年会費 3,000 円 (団体) 入会金 5,000 円 年会費 10,000 円
- ・賛助会員：(個人) 入会金 1,000 円 年会費 1,000 円/口 (団体) 入会金 5,000 円 年会費 5,000 円/口

*事務所へご持参、金融機関へお振込みの他、新たに口座から自動引き落としも選択できるようになりました。

★皆さまからのご寄附による、ご支援や活動参加をお願いいたします！！

当法人は『認定NPO法人』及び『指定NPO法人』を取得しています。寄附をしていただきますと、申告することで国税と地方税をあわせて、**寄附金額の最大50%が税額から控除**されます。

法人からご寄附をいただきました場合にも、一般寄附金額の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられておりますので、トータルの**損金算入限度額が拡大**されます。

<<令和3年度（R3年4月1日～R4年3月31日）に頂戴しました寄附金のご報告>>

件数 15 件 総額 380,950 円 ご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。

*寄附金は下記どちらかの銀行口座へお振込みいただくか、NPO 法人事務所へご持参願います。

尚、寄附金受領証明書を発行する際に、ご住所・ご氏名が必要なため、先ずは事務局にご連絡願います。

■ゆうちょ銀行 記号10970 番号34276131 トクヒ) オダワラナギサカイ

*他銀行から振り込みの場合 (店名)〇九八(ゼロキュウハチ) (店番)098 普通貯金3427613

■さがみ信用金庫 南鴨宮支店(普) 0226591 トクヒ) オダワラナギサカイ

発行：認定NPO法人 神奈川県・小田原市指定NPO法人 小田原なぎさ会

〒250-0875 小田原市南鴨宮3-16-20 2F

Tel/Fax 0465-47-4513

E-mail o-nagisa@nifty.com

ホームページ <https://www.nagisakai.org/>

Facebook <https://www.facebook.com/odawaranagisakai>

小田原なぎさ会のホームページをご覧になるには
検索サイトで「小田原なぎさ会」と入力いただくか
右のQRコードをスキャンでアクセスできます

